

高品質の町内産「筍」 町筍品評会開催

3月15日、町筍生産振興会主催による筍品評会が「Aさつま求名支所」で開催されました。

最初に山口町長が「今年は竹林の裏年にあたっておりますが、今後も竹林の管理に努めてください。」と挨拶しました。

また、審査の後には、下手の古園義家さんの竹林改良を研修し、宮之城町ちくりん指導官 浜田甫氏が「均等のとれた竹林にするには、年度ごとの伐竹が必要。そうすれば裏年にも生産量が落ちにくくなります。」と指導されました。

今年は熊本産も出荷が少なく3月15日現在、1キロ当たり1,154円の高値で取引されています。

(審査結果) 敬称略

特等	脇 俊太郎(下手)	2等	田島健次郎(下手)
1等	狩宿スミエ(境田)		木下 智弘(黒鳥)
	外園 エミ(上狩宿)		花田フヂエ(下狩宿)



竹林研修の様子

接木講習会を実施

2月21日、町改善センター視聴覚室で接木講習会がおこなわれ、農家の方など60名が参加しました。当日は、川薩農業改良普及センターから野菜と果樹の2名の技師が指導にあたり、接木の種類や時期、方法等について説明されました。

また講義の後、参加者たちは実際に柿や梅、野菜などの接木実習をおこないました。実習では「スイカの接ぎ方はこれで大丈夫ですか?」「梅の接ぐ時期はいつ頃?」など質問も多く寄せられ、参加者にとって実り多い講習会となったようでした。

経済課では、今後も2ヶ月に一回程度、栽培講習や加工講習などをおこないますので、興味のある方は是非参加してください。



▲熱心な受講者の皆さん

びっくり箱



〔作文〕(学年は旧学年です)
心と心の会話で

薩摩中二年 淵脇信之 君

僕の祖母は、年をとるにつれ、足腰をはじめ色々な所が弱くなってきました。そのせいで、ちょっとした動作だけでもすごく大変そうです。もちろん僕の祖母だけでなく、世界中のお年寄りや何か障害を持つている人も、同じようなことで苦労していると思います。僕はこんな人達が苦労しているところを見ると何か心にグツとくるものがあります。でも、このような苦労をするのは、お年寄りや障害を持った人だけでなく、誰でも十分に考えられることです。だからこの苦労を、少しでも楽にするためには、バリアフリーが必要だと僕は思います。しかし全てをバリアフリーにすることはあまり良くないことです。なぜなら、お年寄りや障害を持つている人は物に頼るより自分の力でやるんだという気持ちが強いからだ

す。そのことがよく分かるのが、僕の祖母です。祖母はここ最近になって、バリアフリーに手を借りないといけなくなりました。そこで僕の家は祖母の家に、手すりを付けたり、色々な物を買ったりしました。でも祖母は、あまりそれらに頼っていないし、色々な人達に、「使った方が楽だよ」と言われても、自分の力でやろうとしています。僕はこんな祖母を見てすごいなあと思いました。もし自分だったらあきらめると思いますが、人の生きる力というのは本当に強いんだと祖母を見て実感しました。また、本当に必要なかとかよく話し合ってから、取り付けるかどうか決めた方がいいと思いました。バリアフリー。それは、とてもすばらしいことだし、人間が生きていく中でとても大切なことだと思います。しかし、ただ物を与えたり環境を変えたりするのがバリアフリーではない、心と心が通じ合って助け合っていくこそが、本当の意味でのバリアフリーだと僕は思います。だ